

# CONCERTINO *di* KYOTO

第13回 演奏会



71 / 11月14日(日)7:00P.M. 大谷ホール / 指揮 / 井手章夫・絃楽合奏 / コンチェルティーノディキョウト

## ごあいさつ

今年もまた、コンチェルティノ・ディ・キョートの定期演奏会をもつことが出来ました。日頃、何かと御力添えを賜わっています才能教育研究会京都支部の皆様、関係各位に厚く御礼申し上げます。

今回の定期に先立つ11月3日、発足以来コンサート・マスターとして、その優れた音楽性と繊細さをもって、つたない私の棒からその心を受け止め、全体を引き締めてくれた俊才東田渉君がパイロットを志し、その訓練のため、イギリスへ飛びました。このことはコンチェルティノとしては勿論、私にとって全く手痛いことでした。しかし幸、中村剋之君がフランスから帰り、その席を勤めてくれることになり、バッハのホ長調協奏曲や、長年の念願であったブランデンブルグ6番、それにチャイコフスキーのセレナーデ等の大曲をプログラムに加えてコンチェルティノの諸君は今回も又元氣一杯、心をこめて演奏してくれること、思います。

十数年歩んで来たコンチェルティノも、発足当時小学生であったメンバーが、大学を終え就職という時代になって来ました。才能教育京都支部にも次に続く優れた人達が、鈴木メソードによって続々育ってはおりますが、コンチェルティノの歴史としてはひとふしの時期が来たと思います。後に続く次の世代の為にも何卒、末長く御鞭達の程、よろしく御願ひ致しごあいさつといたします。

井手章夫(本会会員 合奏科 指揮者)

メンバー紹介



中村 克之  
(バイオリン)  
スコラ・カントルーム  
ド・パリ卒  
本会マスタークラス生



仲佐 悦子  
(ビオラ)  
府立大学卒



森田 昭  
(コントラバス)  
本会々員



松村 裕美子  
(バイオリン)  
平安女学院 短大2回生



勝馬 春美  
(バイオリン・ビオラ)  
本会バイオリン科指導者



田原 明子  
(バイオリン)  
京都薬大 助手



成宮 憲一  
(ビオラ)  
京都大学 2回生



井手 章夫  
(指揮)  
本会々員 合奏科指導者



長尾 まや子  
(バイオリン)  
大谷大学 4回生



米原 徹  
(チェロ)  
京都大学 4回生



新井 覚  
(バイオリン)  
本会バイオリン科  
合奏科指導者



水野 敬子  
(バイオリン)  
朱雀高校 1年生



壁瀬 雅比古  
(チェロ)  
同志社大学 4回生



野村 武二  
(チェロ)  
本会チェロ科  
合奏科指導者



丸山 美子  
(バイオリン)  
キリスト教大学卒



鳴海 温子  
(チェンバロ)  
同志社女子大 4回生



PROGRAMMA

1 L'Estro Armonico op.3 n.2 sol minore ..... A.Vivaldi  
Adagio e Spiccato Allegro  
Larghetto  
Allegro

2 Concerto in fa maggiore per 3 violini ..... G.Ph.Telemann  
Allegro  
Largo  
Vivace

Solisti Y.Matsumura, M.Nagao, A.Tahara

3 Brandenburg Concerto n.6 si bemolle maggiore..... J.S.Bach  
Allegro  
Adagio ma non troppo  
Allegro

4 Concerto in mi maggiore per violino ..... J.S.Bach  
Allegro  
Adagio  
Allegro assai

Solista K.Nakamura

5 Serenade in do maggiore per archi op.48 ..... P.Tschaikowski  
Pezzo in forma di Sonatina(Andante non troppo Allegro moderato)  
Walzer(Moderato Tempo di valse)  
Élégie(Larghetto elegiaco)  
Finale Tema Russo(Andante Allegro con spirito)

プログラム

1 調和の幻想 作品3 第2番 ト短調.....ビバルディ  
アダージョ・エ・スピカット アレグロ  
ラルゲット  
アレグロ

2 3つのバイオリンのための協奏曲 ヘ長調.....テレマン  
アレグロ  
ラルゴ  
ビバーチェ

独奏 松村裕美子, 長尾まや子, 田原明子

3 ブランデンブルグ協奏曲 第6番 変口長調.....バッハ  
アレグロ  
アダージョ・マ・ノン・トロッポ  
アレグロ

4 バイオリン協奏曲 ホ長調.....バッハ  
アレグロ  
アダージョ  
アレグロ・アッサイ

独奏 中村剋之

5 絃楽セレナーデ ハ長調 作品48.....チャイコフスキー  
ソナチネ形式の小曲 (アンダンテ・ノン・トロッポ アレグロ・モデラート)  
ワルツ (モデラート)  
エレジー (ラルゲット・エレジアーク)  
ロシアの主題によるフィナーレ (アンダンテ アレグロ・コン・スピリート)



## 曲目解説

### 調和の幻想 第2番 ト短調

アントニオ・ビバルディ  
(1675~1741)

ビバルディの協奏曲は、そのほとんどが急・緩・急の3楽章で作られ、当時の新しい協奏曲の様式をとっているが、初期の作品である「調和の幻想」の中には、まだ古風なコレルリの合奏協奏曲の形を残しているものが含まれる。この第2番もその一つで、2本のバイオリンと1本のチェロを独奏部とし、教会協奏曲に準じた4楽章から成っている。第1楽章は次のアレグロへの導入部的な役割をもち、重々しい和音の連続は教会風の印象を強く与えるが、第2楽章ではむしろ活発なリズムの迫力や、下降・上昇音階の軽快な対照に、第3楽章ではトゥッティ内部やトゥッティとソロとの間での強弱の変化に重点が移る。終楽章は低音のはげしい動きを伴う速いジークである。

### 三つのバイオリン のための協奏曲 へ長調

ゲオルク・フィリップ・  
テレマン  
(1681~1767)

イタリア、フランス、ポーランドなど、各地のスタイルを巧みにとり入れた新鮮な着想、親しみやすい平明な表現によって、テレマンの音楽は当時ヨーロッパで最高の評価を得ていた。1733年の器楽合奏曲集「ターフェルムジーク」（食卓の音楽）の出版にあたっては、彼自身製版の作業を手伝うほどの力を入れようであったと云われるが、その予約者名簿にはヘンデル、クヴァンツ、ピゼンデル等を含む185名が記され、彼の名声をしのばせる。この協奏曲はターフェルムジーク第2集の第3番にあたり、典型的なイタリア風協奏曲の形をとっているが、独奏部の技巧的な効果や、時折り現われる意表をつくようなリズム強弱の変化はテレマンの才気を物語っている。

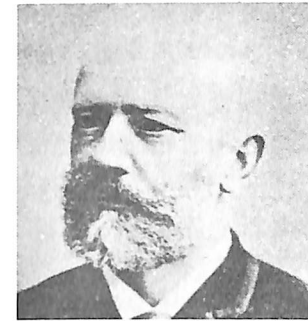
### ブランデンブルグ 協奏曲 第6番 変口長調

ヨハン・セバスチャン・バッハ  
(1685~1750)

ケーテンの宮廷楽団のために作られたブランデンブルグ協奏曲6曲のうち最も早く、1718年に作曲された。ピオラ・ダ・ブラッチョ2、ピオラ・ダ・ガンバ2、チェロと通奏低音というめずらしい編成で、元来は各パート1人ずつで演奏された。おそらくバッハがピオラを、領主レオポルト自身はガンバを受持ったものであろう。冒頭の長いカノンをはじめとして、2本のピオラが全曲を通じて主導的立場をとり、第2楽章ではガンバが休止してトリオソナタの形となる。通常の意味での協奏曲とはかなり異った作品であるが、第1・3楽章ではトゥッティに相当する楽句が繰返して現われるのが見られ、バッハはここで協奏曲とトリオソナタを融合する新しい試みを行なったように見える。深い肉面的感動を与える不朽の名作の一つである。



J.S. Bach (1685~1750)



P. Tchaikowski  
(1840~1893)

### バイオリン協奏曲 ホ長調

ヨハン・セバスチャン・バッハ  
(1685~1750)

青年時代のバッハは、ビバルディの協奏曲をはじめ、多くのすぐれた音楽家の作品を熱心に研究したが、ケーテンの楽長として優秀な楽団を手中にすると、その成果を示すように器楽合奏曲の名作を続々と作曲した。この曲もその一つで、宮廷楽団の首席奏者ヨーゼフ・シュピースの独奏で演奏されたものと思われる。第1番のイ短調よりも一層独奏の優位が強調され、技巧的な華やかさが多く取入れられている。力強い分散和音の主題は独奏をも含めて第1楽章全体を強く支配しており、第2楽章の低音の旋律と独奏との対比や、第3楽章の激しい舞踏的な動きと共に、従来の協奏曲から更に一歩を進めたスケールの大きさを示すものである。

### 絃楽セレナーデ ハ長調

ピョートル・チャイコフスキー  
(1840~1893)

19世紀の数少ない絃楽合奏曲のうち、最も広く親しまれる作品で、1880~81年の作である。絃楽器だけの合奏であるにもかかわらず、すぐれた手腕によってあざやかな変化に富んだ色彩が生み出されている。曲はまずコラール風の壮大な序奏にはじまるが、これは第1楽章の最後と第4楽章の終り近くに再現し、さらに第4楽章の主題が同じ骨格を持つことにより全曲を統一する役目を果たしている。彼の好んだ音階的進行はこの曲でも盛んに用いられるが、全曲の主要主題がほとんどすべて長調であるため、比較的明るい感じを与える部分が多い。スラブ的な情緒は楽章が進むにつれて次第に高まり、第4楽章はロシア民謡を主題として強烈なエネルギーをもって展開する。

80本のスピーカーからお好みの音が撰択出来る  
京都唯一のスピーカーシステム

音と電化製品の殿堂 **アサヒムセン**

1 F……………電化製品 2 F…………オーディオ・パーツ

取扱メーカー ナショナル・東芝・サンヨー・三菱・ソニー・ビクター  
サンスイ・パイオニア・トリオ・ラックス・ティアック・その他外国製品

中京区河原町三条上ル一筋目東入ル ☎231-4475電化製品 221-2334サービス 221-4212オーディオ

内 科  
小 児 科  
レントゲン科 **白 数 医 院**

京都市中京区錦小路通室町西入

医師 白数久兵衛

電話 (221) 1280番



主催 / 社団法人才能教育研究会京都支部